

えりいつの議会報告

えりいつ3期12年の議会報告と今、考えること

◆多様な子育てに対応する支援体制と教育環境の充実

- * 保育の質を落とさない待機児童の解消を目指します。
- * 自営業や非正規、就活中を含む専業主婦など育児休暇制度を利用できない家庭にも支援や援助を提案。誰もが安心して子供を産み育てられる環境整備。
- * 個性を尊重し「みんなちがって、みんないいんだよ」と、お互いの個性を認め合う寛容な心を育む教育。

◆地域で心豊かに過ごせる老後のために

- * 高齢者から子供、子育て世代、誰もが気楽に集える場。
歩いて行けるところに集える場をつくります。
- * 高齢者のニーズに合った移動手段やサービスの提供・支援方法を検討します。
- * 定年後の人生を孤独にしない支援。1日に1回は他人と会話する仕組みづくり。

◆安心して住み続けられる東海村をつくるために

- * 実行性のある避難計画をつくることは、困難を極めています。
住民のいのちと財産を守る点、また核のゴミを出し続ける点からも東海第二原発の再稼働に反対です。
- * 若い世代に魅力あるまちとするために、積極的に若者の意見に耳を傾け、若い議員候補の育成を目指します。
- * 村内の緑地は目に見えて減少。緑化基金として確保されている貯金を使って貴重な緑地を守ります。
- * 「今ある建物を賢く使う」という公共施設のあり方を推進します。

女性の感性と生活者目線で提言します

誰もが大切にされる村づくりのため!

東海村に住んで初めての春、自宅近くの里山の美しさに感動しました。およそ30年前のことです。まさしく「山笑う春、山萌える春」の景色でした。そして緑地保全のボランティアを立ち上げ、活動が続けて10数年経過。議員を目指したきっかけの一つが「東海村の自然環境を守りたい」という思いでした。

しかし、残念なことに村内の緑地は目に見えて減少しています。里山保全活動が続けながらの3期12年間は、3.11東日本大震災やその後の原発再稼働問題など、突き付けられる課題も大きく、めまぐるしい日々でした。



行動!
市民派

主婦だった私が、みなさまとのふれ合いを通して「議員」として育てられたと感謝いたしております。これまでに皆さまからいただいたお声が私の大きな力になり、使命感を強く感じたものでした。その一方で、議論を尽くすことなく議員の数の力で物事が決まってしまうことへの無力感やむなしさを感じことも正直ありました。

しかし今、超高齢化社会・子育て支援・原発・環境問題等々の山積した課題を前に、「誰もが大切にされ、安心して住み続けられる村をつくるために」ここでへこたれているわけにはいきません。

初心に立ち返り、そして次の一步を踏み出すためにこれまでの3期12年を振り返ってみました。

えり
東海村議会議員 恵利 いつ

原子力問題

東海第二原発の再稼働には反対です

山田村長と刈羽村品田村長との原子力業界誌(10/5号)対談の反響が、新聞やTVニュースで取り上げられています。

記事を読んだ住民からは、「村長が原発容認だと初めて知り驚いている」「これまでの中立的な発言とは違う。信頼が崩れた」との声が聴かれます。原発に対する考え方は人それぞれであっても、東海第二原発の再稼働については、村民の命を守る責務を負っていることを肝に銘じ、判断してほしいです。

そして私たち住民は、再稼働問題を他人任せにせず、今こそ一人一人が自分の事としてしっかり考えることが大切と感じています。

ご意見をお寄せください。

東海村の未来のために、前進し続けます!

議会活動の成果(一部)

◆五反田線

当初予算約30億円の高架橋道路計画を景観保護と予算の無駄遣いを訴え中止に。数年かかりましたが、粘り強く訴え続けた結果です。



五反田線中止により守られた細浦の景観



たれ付帽子

◆たれ付帽子

紫外線の影響を心配したお母さんからの提案でした。導入に消極的だった園においても、今では普通の光景です。

◆奨学金枠の拡充

東海村独自の奨学金制度。就学資金に加え、入学準備金など、これまでに多くの家庭に活用されています。

◆不妊治療の助成金

地域を回っている時に、ある女性から不妊治療について切実に訴えられました。私の気が付かないことでした。

◆原電通り白方小前信号待ち待避スペース

子どもの安全を見守る男性の声が議会質問のきっかけです。行政はガードレールで対応との返答。訴え続けたことで、小さなスペースを確保しました。とても役に立っています。



信号待ち待避スペース



里山整備でのゴミ

◆自主的ボランティア活動のごみ処分

里山整備で出たゴミの処分に困ったことがきっかけ。行政が回収するように改善されました。

◆イモゾー家族をまちづくりに活かす

ほとんど活用されていませんでしたが、今では、あちらこちらでお目にかかるようになり、東海村のキャラクターとして定着しました。



辻本京子さん作粘土人形

病児病後児保育施設「るびなす」



◆病児病後児保育施設

2019年5月オープン。議員活動2期目から訴え続けてきました。そして、4年前3期目を目指したときの公約に。核家族の多い、また共働き家庭の大きな支援、安心につながったと思います。

◆高齢者ドライバーの免許証の自主返納支援

高齢者や民生員の方などから声が届きました。担当課では自主返納支援について考えていないとのことでしたが、あきらめず議会質問で支援の必要性を訴え、支援を確保することができました。次は、新たな交通手段、サービスに取り組みます。



食事作りボランティア

◆みんなの食堂への取り組み

行政も支援する意向があると答弁。まだまだ小さな活動ですが、子どもたちに喜ばれています。この活動が広がるといいですね。

恵利いつ12年間のあゆみ

- 2008.3 ●市街地における緑の保全、緑化の推進 ●東海駅北側踏切 ●自転車によるまちづくり
- 2008.6 ●環境都市宣言 ●指定ごみ袋導入による変化と資源ごみ ●五反田線延伸計画の見直し ●後期高齢者医療制度 ●児童・幼児の紫外線対策
- 2008.9 ●緑の保全及び緑化の推進に関する条例 ●環境都市宣言 ●農業情報発信館 ●安心して出産できる環境づくり ●東海村における教育費支援
- 2008.12 ●東海村の民話を生かしたまちづくり ●防災訓練について ●ユニバーサルな視点から見た公共施設のあり方
- 2009.3 ●公共下水道事業 ●非常勤職員(主に福祉部門)の雇用状況 ●都市計画
- 2009.6 ●ゴミの回収について ●白方小学校の通学路の安全確保 ●新型インフルエンザによる修学旅行への影響 ●村上村政12年のこれまでとこれから
- 2009.9 ●適応指導教室「たんぼぼクラブ」 ●目に見えて減少している木、緑地の今後の保全
- 2009.12 ●東海村の防犯対策 ●役場職員の勤務状況と人事に関して ●環境都市宣言にふさわしいまちづくり
- 2010.3 ●婦人科外来新設の見通しとがん予防対策 ●環境宣言と緑地保全 ●子どもたちへのキャリア教育について(勤労観・職業観を育てるために)
- 2010.6 ●東海村の教育振興基本計画の策定 ●学童クラブについて ●原子力政策 ●雇用(特に若者雇用)の創出とまちづくり ●照沼小学校及び中丸小学校の建設事業
- 2010.9 ●エコオフィスプラン 環境保護、保全のあり方 ●ボランティア作業後のごみの処分 ●公共施設解体等に伴う備品のリサイクル及び処分 ●生涯学習センター建設計画 ●東海病院について
- 2010.12 ●障がい者への支援 ●携帯電話基地局の建設 ●「知トク!なトク!ふる里大好き自然ゼミ」について
- 2011.3 ●東海村における土地利用計画 ●原子力との共存共栄 ●地域で支える福祉活動と行政の連携、協働
- 2011.6 ●3.11大震災直後からの行政の取り組み ●放射能汚染に対する測定強化 ●子供たちの安全確保のために ●避難所のあり方 ●ボランティアの心を大切に行政
- 2011.9 ●福島第一原発事故の影響に対する東海村の対応 ●原子力事故から見た地方自治のあり方 ●ゴミの出し方 住民要望に対する村の考え ●ろうそくの灯りと民話のやさしさを組み合わせたまちおこし
- 2011.12 ●原発政策 特に東海第二原発について ●ゴミ集積所の問題 ●原子力施設の安全性について ●自転車道について
- 2012.3 ●放射能汚染問題(監視体制と除染計画 汚染土壌の処理) ●東海第二原発問題に対する住民意識の把握と地域振興
- 2012.6 ●自然エネルギー自給率アップの取り組みを地元産業へ展開 ●自然災害と原子力災害時の住民避難計画 ●補助金のあり方と今後の取り組み
- 2012.9 ●東海村版おひさま発電所 ●甲状腺検査導入の経緯と検査の内容、検査の対象等 ●排水路の維持管理計画と関係地域との協働体制のあり方 ●村所有の文化財の活かし方を含め、文化振興に対する教育長の考え ●原発問題 市民活動の全国的盛り上がりについて村長の所感を問う
- 2012.12 ●省エネ、節エネ、創エネ(エネルギーの地産)の取り組み ●精神障がい者のための授産施設 今後の取り組みとサポート体制 ●安全な通学路確保 緊急点検の結果と今後の対策
- 2013.3 ●東海原発の廃止措置の進捗状況と安全管理 ●東海第二原発のこれまでの廃炉計画と今後 ●L3プランをもとにした村民に身近な視点からのまちづくり ●モニタリングポストの電源設置強化と村内設置の充実 ●中高年のための健康教育の充実
- 2013.6 ●東海第二原発問題と地域の課題を国に働きかけること ●J-PARCにおける事故を含め、村の原子力対策 ●TOKAI原子力サイエンスタウン構想 ●再生可能エネルギーの普及拡大 集会所等に太陽光システム導入を ●村上村政4期目最後の議会 村の未来像、東海サイエンスタウン構想とは
- 2013.9 ●原発再稼働問題 ●村民の叡智が生きるまちづくり ●障がい者、障がい者施設への仕事の提供 ●婚活イベント「とうかい出逢い村」
- 2013.12 ●原子力施設立地自治体の首長として、特定秘密保護法案をどう考えるか ●文化、歴史資料の保存と活用、そして継承 ●村職員育成の基本的方針並びに専門職の育成

今後もしっかり検証を!

(仮)歴史と未来の交流館建設計画中止を求め、住民有志の皆さまと共に取り組みました。

平成25年頃の当初予算では12億円が、平成30年6月に16億円、平成31年3月には建設関連事業費として18億円超に膨れ上がりました。この間、多くの住民から建設を疑問視する声が寄せられました。しかし、議会の賛成多数で予算が認められました。

村には十分に使いこなせていない立派な施設があります。今後も交流館を含め公共施設のあり方をしっかり検証していきます。

- 2014.3 ●環境都市宣言と自然の恵みを活かした持続可能なまちづくり
●東海再処理施設におけるプルトニウム溶液及び高放射性廃液の固化、安定化の実施
- 2014.6 ●景観から考えるまちづくり ●原子力発電問題 ●ゆるキャラ、イモソー家族を活かしたまち興し
- 2014.9 ●姉妹都市交流と国際的まちづくり推進 ●すべての保護者が不安なく子育てできる環境づくり
- 2014.12 ●「原発事故、政府が責任を持つ」という宮沢経産大臣発言に対する村長の見解を問う ●在宅介護の支援、特に介護をしている人へのサポート体制の充実 ●いじめ・不登校問題そして性的マイノリティ問題
- 2015.3 ●環境モデル都市を目指す基本的姿勢 ●教育現場における地域文化の継承 ●国や県からの補助金受け入れに対する村の考え方 ●原子力災害における避難計画
- 2015.6 ●生活環境及び景観を考慮した太陽光発電施設のあり方 ●避難計画を進める中でのモニタリングポストの増設 ●ボランティアポイント・健康ポイント等を地域通貨に交換し、地域活性化につなげる政策
- 2015.9 ●施設(建物)から機能への発想の転換が必要 ●ハーモニー東海 ●選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを契機に政治教育の一環として子ども会議を復活する考えはないか ●役場職員の人事・育成・働きやすい環境づくり
- 2015.12 ●東海モデル、不妊に悩む家庭への支援のあり方 ●病児病後児の保育と学童の受け入れ体制づくり
- 2016.3 ●行政改革の一つとして取り組む公共施設マネジメント ●BNCTを活用したまちづくり
- 2016.6 ●広域避難計画「策定」 ●安全協定の見直し ●大人の引きこもり
- 2016.9 ●人口減少社会における公共施設建設のあり方 ●地元業者への支援、育成と談合防止 ●めじろシール廃止の経緯と新たな農業支援策
- 2016.12 ●耐震性のない旧公民館内に置き去りにされている青少年センターの今後 ●NPO法人の育成と行政改革の推進 ●来年度の学童保育の見直しと病児病後児施設の取り組み
- 2017.3 ●情報の公開に基づく村民を交えた討論の場の設置 ●サイクル研究所内の廃棄物の管理問題等 ●地方公務員の減少と非正規職員の増加に伴う問題点と公務員のあり方 ●公共施設等総合管理計画を踏まえて(仮)歴史と未来の交流館建設をどう考えるか
- 2017.6 ●子供たちの避難計画はどのようになっているのか ●緑地保全委に対する村の考え、中長期ビジョンについて ●高齢者ドライバーの自動車運転免許証の自主返納について
- 2017.9 ●(仮)歴史と未来の交流館建設への住民の理解度 ●生産意欲を高める農業支援のあり方
- 2018.3 ●まちづくりの視点から考えるNPO、市民活動団体の育成 ●緑地保全活動を地域や市民活動団体の活性化につなげるために ●子どもの貧困問題と(仮称)みんなの食堂への取り組みについて ●原子力防災問題について、住民にも主体的に関与してもらう事への村長の考えは
- 2018.6 ●これからのまちづくりには、単位自治会の状況に応じた複数の活動拠点も必要 ●小中学校における不登校児童、生徒の実態と教育現場の取り組み ●公共施設の長寿命化を考える中で、文化センターにおけるバリアフリーの取り組み ●(仮)歴史と未来の交流館建設について、計画を疑問視する声が多く寄せられる現状
- 2018.9 ●少子化社会における村立学校の将来ビジョン ●文化センターの長寿命化計画 ●安全な飲み水、農業用水確保のための認識を高めるために「久慈川サミット」開催を ●文書管理や記録管理はどのような基準のもとに行われているのか
- 2018.12 ●「交流館」建設計画取り下げを求める2175名の署名をどのようにうけたのか ●再生可能エネルギー、特に太陽光発電システム導入への支援 ●フクシマ由来の汚染土壌等について
- 2019.3 ●歩いて行けるところに住民が集える場所づくり ●高齢者が活躍できる仕組みづくり ●財政見直しから考える「(仮)歴史と未来の交流館」建設問題 ●東海村における児童虐待の現状と対応 ●東海第二原発再稼働におけるメリットとデメリット
- 2019.6 ●(仮)歴史と未来の交流館建設問題、付帯決議を受けて行政はどのように取り組むのか ●外国人(労働者)を東海村の一員として迎え入れるための環境整備 ●東海第二原発の再稼働はできないと村長は明確に意思表示すべき
- 2019.9 ●緑地乱開発を抑制しつつ再生可能エネルギー普及拡大を進める村となるための条例づくり ●多様な子育てを選択できる支援のあり方



事業の進展に危機感を感じた住民のみなさんと共に署名活動。集まった2,175名分の署名は2018年11月5日に住民代表が東海村長に届けました。



みなさんの声に何度も励まされました。今も、交流館建設に反対の声が届きます。残念ながら、計画の中止には至りませんでしたが、今後も事業の進捗を注意深く見ていきたいと思います。

議員定数を減らしたのに

議員報酬を上げるとは!?

現在20名の定員ですが、企業や事業所などの団体出身の議員数名が上位当選しています。この状況で2名減らすということは、住民の意見をバランス良くすくい上げることが難しくなります。原子力問題を抱えている村として、より多様な民意を反映するためにも定数を減らすべきではないと考え、私は反対しました。

村民の収入が減る一方で、公共料金や国民健康保険税そして消費税などの値上げの中、住民への十分な説明もないままに議員報酬を増やすことは住民の理解が得られないと考えます。

しかし、議会は多数決で決定します。今の議会は、定数減、報酬増という決定をしました。みなさんはどうお考えになりますか?

あなたの声が私の原動力!

村議会とは何をするとところ?

■村議会は、住民の皆さまの声に耳を傾け、福祉や幸せの向上のための様々な政策を決めるところであり、日常生活に密着した政治の最前線であります。私が議員1期目を目指し村内を歩いていた時、ある方から「住民の話をまず聴くことです」と言われました。村の議員はもとより、行政に携わる誰もが心に留めおく言葉であると、最近改めて考えます。

■私が理想とする議会は、会派(グループ)に縛られることなく議会がワンチームとなり、是々非々の議論を繰り返し、政策を決めていく**チーム東海村議会**です。しかし現状は、過半数を占める会派が存在し、議論が尽くされることなく物事が決まってしまう傾向にあります。

■「執行機関と一歩離れて、二歩離れず」議会は執行機関とは一歩離れて、執行機関に対して厳正に批判や監視を行い、住民の立場に立って公平で妥当な結論を見出し決定するところです。しかし離れすぎてもいけません。皆さまのお声を執行部にしっかり届けることは、議員の大切な仕事です。

みんなの声を議会に届けます



「イマジンカフェ」

～カフェで語ろうまちづくり～

住民ボランティアで運営しています。さまざまなテーマで隔月開催。この11月のカフェで23回目を迎えました。



第23回 2019.11.9
第52次南極越冬隊員のお話



第11回 2017.11.29
パソコン・スマホ・人工知能の時代

あなたも参加してみませんか

活動記録

議会外でも様々な活動をしています。興味のある方はぜひお問合せください。

里山の会

東海村の放置された里山の手入れをボランティアで行っています。



手入れを続けて気持ちの良い森に



子どもたちも参加しての里山整備



子どもたちをまねいて楽しいひととき。落ち葉をみんなで集めてカプトムシの寝床づくり。

リスクコミュニケーション しーきゅうぶ東海村

原子力だけでなく、さまざまな科学技術に関わるリスクの問題を市民が行政や企業とつよにつよに考える場です。



幌延地下埋設研究施設を視察

自然のみどりを守る会

自然のみどりを守る会は、みどり豊かな自然環境を子供達に残していくため、不法投棄ゴミの回収や下刈りなどの里山保全活動の他に、観察会や研修会を実施しています。



精神保健福祉ボランティア東海びあ♡

ボランティア東海びあ♡を通して古着やスーツ、タオルを届けるなどの支援をしています。



東海びあ♡の活動風景 ひあカフェ



作業の合間のティータイム

ピンクリボンは乳がん啓発運動のシンボルイメージです

えりいつ

誰ひとり置き去りにしない村づくり
あなたの声が私の原動力